

平成 30 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社金ヶ崎福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	平成30年10月28日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhvou_pref_search_list_list=true&PrefCd=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号 やまのえんビル1階
訪問調査日	平成30年11月12日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

晴れた日には岩手山が望める程景色が良く春には桜、夏には青々とした緑、秋に紅葉と四季を感じながらゆったりとした雰囲気天然温泉に浸りながら生活出来ます行事を取り入れながら生活を送って頂けるようにしています。利用者様の意思を尊重し個々のペースにあった環境で過ごせるよう支援します。看取り取り組みを考え看護師を配置します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、天然温泉を有し民家(酪農)が点在する中、災害等について各戸と協力体制(地域協力隊)を構築し、併設の小規模多機能ホームや隣接の温泉施設などと連携し、地域に根ざしたグループホームとして12年を迎えている。利用者は、車椅子利用者の増などから遠くに出かけての地域交流は多くないものの隣接の温泉施設や併設の小規模多機能ホームの利用者との交流、幼稚園児や小学生など子どもたちとの交流を重ね深めている。とりわけ利用者は、ホーム内で天然温泉を活用した入浴によって、のんびり笑顔を絶やすことなく生活を送っている。看取り対応向け常勤看護師の配置に向け取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名：介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後、基本理念、介護理念、そして新しく加わった職員信条も唱和し共有しながら実践につなげるようにしている。また、毎月実施しやすい月目標を立て取り組んでいる。	開設当初に、職員皆で作りあげた理念について、唱和しながら、理念に対する職員の目線と方向性を合わせ、理念(安心・笑い・意思の尊重)の実践状況の振り返りを毎日行っている。この唱和と振り返りを通して、理念は職員皆に共有されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	園児の訪問や、小、中学生のボランティアスクールの請けいるを継続している。また、駒子の行事に参加した地区の子供たちの踊りを西光荘でも披露し、交流を図っている。	6月には小学4年生が七夕づくりに、11月には年長児がふれあい体験として16名参加してくれた。隣接する温泉の利用者が団体で見学に来所したり、踊りや歌のボランティアも温泉での披露後かけつけてくれる。事業所は自治会に加入し、広報で様々な情報を収集している。夏祭りや敬老会のホーム主催行事は、毎年近隣住民の参加を呼びかけながら行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	温泉を利用した「貯金口座」と「ゆたつりサロン」という介護予防事業に取り組み、コミュニケーションを行う事で地域に貢献している。またk、地区の老人クラブの方々にも見学に来て頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月1回の開催。会議のメンバーには行事に参加してもらい、利用者・職員・施設の様子を見てもらっている。グループホームの利用者も1名会議に参加している。利用者自身の発言は少ないが、事前に話を聞いて会議の内容に活かすようにしている。	委員の農作業等の都合を考慮し、夕方からの開催としている。委員からの話題が豊富で、予定時間を超過することが多い。災害対応の「簡易型発電機」の紹介があったり「介護認定手続きの迅速化」に関連し主治医意見書の作成督促等の意見が出され、その改善に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議、個別地域ケア会議に出席し地域で抱えている問題点、情報提供により問題解消出来るように協力関係を築くようにしている。	運営推進会議等の際、相談や情報交換、指導助言を得ている。介護関係書類の提出等でたびたび役場を訪問して顔見知りとなる中、普段には電話で連絡・連携が図られている。利用者支援のケース検討会には、地域包括支援センターのみならず福祉担当の関係職員も参加する等、円滑な協力関係にある。		

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	否定的な言葉、本人の意志を制止する様な声がけをしない様にしている。拘束が必要な場合に限り、本人・家族に説明し同意を得て行う。また実施する期間を明確にしている。	介護力向上委員会を中心として拘束の未然防止等について職員全員で共有しながらケアに当たっている。とりわけ、「言葉による拘束(制止や抑制など)」について、お互いに注意し合っている。施錠については、夜間の防犯を除いて行なっていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	玄関の施錠以外は物的拘束は行っていない。入浴時・排泄時に身体観察を行う事を意識し予防に努めている。また職員間で何が虐待なのか話し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されていた方が以前いたので言葉としては知っているが、実際に制度がどのようなものかあまり理解していない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は職員2人で対応し、説明に同意を得られるようにしている。こちらから一方的に話を進めず、確認しながら行うように努めている。また、契約は相手の都合の良い時間帯に沿うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事後、家族懇談会を開催し意見や要望を頂いてサービス向上に努めている。また話をしてもらうことで、思いを尊重するようにしている。	毎月「ホームだより」や「生活状況報告」を送るとともに、「家族懇談会」を開催し家族との信頼関係を深めている。定期的に来所される家族からは、前向きで具体的な意見が出され、おむつ代が高いとの話をきっかけに、排泄ケアの見直しと経費節約につながった例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長との個人面談が比較的簡単にできるようになっている。また業務に対して提案式が採用されボトムアップされるようになってきている。	月2回の職員ミーティングや毎日の申し送りなど、意見等を出し合える職員関係となっている。利用者・職員向け申し送りノートは、それぞれに気付いたことを記載し、有効に活用されている。施設長や管理者は職員の負担や不満の軽減を意識し、相談に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の回数が2回に増えた。基本給料の増額も継続している。職員はやりがいを持って仕事をしているが、時間外になってしまうことが解消できていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事前に参加したい研修のアンケートを取ること、役職や経験年数から受講して欲しい研修を精査している。外部研修に参加する時は勤務扱いになるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胆江管内の他事業所との交流研修を行い、他事業所職員との情報交換をし良い所を学ぶようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾けながら安心を確保する為の関係作りに努めている。健康状態や生活上の問題となる事や要望をアセスメントしている。見学や体験利用を行い、雰囲気を感じ取ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査で自宅に赴き、本人や家族の話を傾聴し、不安に思う事・迷っている事を聞き出せるように努めている。また利用前に見学に来てもらい、本人には体験利用してもらい、それぞれに施設の事を知ってもらうように勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を確認し、今必要なサービスが何か見極めるように努めている。程良い距離感を持ち、それぞれのペースで生活できるように努めている。なんでも介助しようとしていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、カーテンの開け閉め、下膳、日めくりカレンダー等出来る事を行って頂いている。様々な年代の職員がいる事で家族のような接し方を行う事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	毎月家族へ生活状況をお伝えている。また 変化に応じてすぐに家族へ連絡することを 欠かさない。面会は遅い時間以外を除き制 限していないので、面会にいらした場合は各 自の居室でゆっくりと過ごせるように配慮し ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が尋ねてきた時はゆっくり話せ るように配慮し、地区の敬老会や文化祭を 通し繋がりが途切れないようにしている。	兄弟や近隣、成年後見人や元の職場の同僚 などが面会に来られ、居室などで楽しい時間 を過ごしている。併設する小規模多機能ホー ムには、日中自由に入出りでき、馴染みの利 用者や職員と過ごすことが出来る。訪問床屋 さんと馴染みになった利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	入居者間の関係を配慮し状態を把握する為 に席替えを行っている。テーブルを囲んでレ クを行いひとり一人が互いに寄り添って生活 している環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所入所による利用終了がほとんどだ が、終了しても町中でも気軽に声掛けをして くれる。必要に応じて連絡を取り相談や支援 を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の何気ない仕草や表情、会話から思い や希望・意向把握に努めている。また家族 から情報を得るようにしている。	一日をより穏やかに楽しく過ごし、笑顔につ ながるケアに向け、生活場面での一つ一つ の反応や入居後の利用者の変化から、それ ぞれの「好きなこと」「したいこと」「できること」 などを申し送りノートに記録し、共有しながら 実践に取り組んでいる。今後も、家族とも相 談しながら、思いに寄り添いたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	本人や家族から趣味や興味のある物事を 聞き情報収集するようにしている。また日常 の会話からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いや、バイタルチェック等で 個々の心身の状態の把握に努め、申し送り やミーティング等で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が快適で楽しく穏やかに過ごして頂けるように、みんなでレクリエーションを行い、本人や家族の意見や思いを聞きコミュニケーションを取れるように考えている。	介護記録や申し送りノートなどからモニタリングを行い、計画作成担当者が、6ヵ月を目安にケアプランを見直している。見直しに当たっては、理念等を念頭に振り返り、安心と笑顔につながるプランを目指し、職員皆で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に気付いた事や変化があった事等を細かく、すぐに情報共有している。朝夕の申し送りだけではなく、ノートを活用した情報の共有もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援事業の利用、訪問診療の利用、床屋、クリーニングの訪問、通院等、ニーズ発生時に随時対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括ケア会議等を通し、入居者に合う利用ができるように支援している。移動図書館も活用して、入居者から意見を聞き、それに合わせた本や紙芝居を選んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族にお願いしているが、受診の援助も行っている。現在、月に一度訪問診療を利用しており、体調に変化があった場合は、看護師と相談しながら支援している。	利用者家族が希望する「かかりつけ医」となっている。受診は家族同行を基本にしているが、緊急時や遠方等で都合のある場合には、職員の同行受診にも柔軟に対応している。協力医の訪問診療や日中の時間帯には職員である看護師が勤務しており、利用者の体調管理に安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の些細な事でも看護師に報告し、指示を仰ぎ、連携をとっている。看護師は利用者の状態観察に努め、適切な対応・指示が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会や家族から様子を伺う。医師からの説明には家族の同意を得て一緒に聞き、病状の経過・状態を把握して利用再開時に混乱がなくスムーズにできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人に意思を確認し、できるだけ要望に添えるよう、かかりつけ医・協力医と当事業所で話し合い、対応可能な機関へスムーズに移行出来るよう支援している。また、家族の心のケアにも努めている。	看取りについては、現状では難しいことを伝え家族の了承を得ているが、必要となった際には、転所等家族等の納得するような支援について話し合うこととしている。一方で、職員のスキルアップには取り組みたいとしている。	家族等の安心安堵に向けて「終末期等の対応研修」など、職員のスキルアップへの取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、ミーティングなどで嘔吐した場合などの対応を繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、最低でも年2回の避難訓練を利用者と一緒に実施している。地区の消防団や地域住民を巻き込んだ訓練を行っている。	訓練は、併設の小規模多機能ホーム、隣接の温泉施設と合同で行なっている。職員のAED講習や消火器訓練も受講している。地区の消防団からは、団長含め8名程度の協力がある。備蓄も当面2・3日分を確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時・入浴時に配慮するのは勿論の事だが、利用者は人生の先輩で敬うべきという事を常に意識し、命令口調や大声にならないように努め、利用者の人格を損ねない言葉かけをしている。	「さん付け」を始めとして、人生の先輩としての敬意を払った言葉づかい忘れないよう互いに注意しあっている。性別や経歴、特技等を考慮した役割を担ってもらい、ネガティブな話題は会話に出さないよう配慮している。「入浴」「排泄」支援の際の羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳が遠い方がTVを観ていて『音を高くして欲しい』と話された時は、他の方にも配慮し、本人はTVの近くに行くことを勧める。『〇〇が食べたい』と話す方がいれば、出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れはあるが、そればかりに捉われずに、利用者がしたいと思った事はその時にできるような、柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服は一緒に選ぶ。好みを聞き入れ購入したり、家族から持って来て頂いたり、家族が夏物・冬物の入れ替えや購入も協力して頂いている。 床屋のペースも自己決定できる方は本人に合わせる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べやすいよう調理の仕方を工夫し盛り付けにも工夫している。食事後の下膳をして頂く事もある。	希望のメニューを取り入れたり旬(山菜やいちご)の食材を使い季節感にも配慮した献立としている。味見や下膳、茶碗拭きなどに参加しながら楽しく食べている。朝と夜の食事は職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みや状態に応じ、食べやすい形にしたり器を変えたりしている。水分量は、十分な水分が摂れるように常に意識をしながらチェックを行っている。日により、様子を見てトロミの量も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで口腔内や義歯の状態を観察したのち、洗浄を行っている。歯磨きが利用者に伝わらない時は、職員が歯磨きしているところを見てもらい、言葉以外でも伝えるようにしている。口腔ケアの研修にも参加し、口腔ケアの重要性を職員に認識してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン・タイミングを逃さないように常に様子に気を配り、記録等から把握し排泄用品を使い分けている。トイレ誘導を行い自然な形での排泄を促している。	殆どの利用者は、リハビリパンツ等の介護用品を使用しているが、排泄は職員の適時の声がけで、トイレを使用している。職員の細やかな記録と声がけ、見守りによって、排泄機能を維持しているほか、誘導なしでトイレ排泄ができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前は施設内を歩き午後はレクリエーションを行う。本人の希望、状態を見ながら運動し便秘解消に努めている。牛乳・ヨーグルト・ヤクルトを提供し1日の水分摂取量にも気を付けている。看護師とも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別で温泉を使った入浴を行う。入浴は主に午前中だが、状態によっては午後に入浴する事もある。併設の事業所の大浴場で温泉気分を味わう事もしている。	併設の小規模多機能ホームの風呂も利用しながら、少なくとも週3回の入浴に努め、清潔保持に努めている。演歌を歌ったり、一人でゆったりと、職員と談笑したりなど、のんびりと楽しみながら天然温泉に入浴している。	利用者の、より安全で安心な入浴に向け、引き続きの「アイデアの出し合い・工夫の重ねあい」を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなった時に居室に入って休んでもらうようにしている。状況に応じて畳やソファ、ホールのベッドで休んでもらう事もある。枕の高さはそれぞれの好みに合わせ、使い慣れた毛布を持参し安眠し易いように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化を確認し訪問診療時に相談している。便秘・不眠時の薬は担当医・看護師と相談を行う。誤薬がないように職員間で声かけ等して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、日めくりカレンダー等出来る事は行ってもらう。歌や踊り等好きな曲を流したり歌ったりレクリエーションを行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会時に家族と外出してもらう事もある。天気が良い日は気分転換に外へ散歩するようになっている。	利用者の気分や体調、その日の天候等とも相談しながら、周辺散歩や外気浴、花見や紅葉狩りなどのドライブに出かけている。高齢化に伴い、日常的な散歩等が以前より難しくなっており、今後は、家族等の協力も得ながら、通院時に外食をしてもらうなど、出来るだけ出かける機会を多く設けたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら買い物に出掛けたいと話す方はいない。週一回ヤクルトさんが来荘する事、敷地内に駒子の湯でも買い物が出来る事から必要に応じて買い物支援が出来るように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話したい手紙を書きたいという方がいない。家族の話や自宅での話を聞き出し、家族との繋がりを干切れないようにしている。いつ対応が必要になってもいいように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は温かい色合いの蛍光灯、ホールは共有なので明るくしている。有線放送で民謡やクラシックとその日によって変更している。ホールには季節の飾りをつけを行う。飾りつけは職員と一緒にやる事もある。	天窓から太陽光など自然に光が入り、集合テーブルからは牧草地が眺められ、明るく解放感にあふれ居心地がよい。壁には習字や写真、テーブルには、季節の花などが飾られ季節感に配慮している。ホームは、整理整頓や清掃が行き届いており、トイレ臭など気になる臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファ、居室のベッドの配置や各自に畳スペースやソファを置きそれぞれの過ごしやすい環境作りをしている。併設の小規模多機能型で過ごすこともしている。食事の席は入居者間の関係性に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら馴染の物や使い慣れた物、好みの物を持参している。	時計やカレンダー、家族写真や自分の描いた絵等が飾られ、テレビの持込みもある。ご夫婦での入居者は、隣同士の居室でつかず離れずの関係が出来上がり、安定した生活を送れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	姿勢を保てないからといって、すぐに肘掛けがある椅子に座ってもらうのではなく、施設内の掲示物を見て歩きながら歩行訓練し筋力の維持や低下しないように努めている。トイレや自室がわかるようにネームプレートを付けるなど表記に工夫をしている。		